

I . 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野））
総括研究報告書

**発達障害児者等の地域特性に応じた支援ニーズとサービス利用の
実態の把握と支援内容に関する研究**

研究代表者 本田 秀夫 （信州大学医学部附属病院子どもたちのこころ診療部部長）

研究要旨：本研究の目的は、発達障害の支援ニーズ、およびわが国の各地で実施されているサービスの実態を把握することである。

研究は「地域特性に応じた支援ニーズとサービスの実態に関する研究」および「サービス内容の評価に関する研究」からなる。前者はさらに児童期～思春期に関する検討と青年期～成人期に関する検討に分けた。

支援ニーズとサービスの実態に関する研究（児童期）については、自治体を政令指定都市、中核市・特例市・特別区、小規模市、小規模町村の 4 群に分け、それぞれに研究協力を得ることのできた自治体の障害福祉担当部署へのアンケート調査を行った。多領域の連携、なかでもつなぎ支援については、自治体によってやり方に大きな違いがみられた。連携を担うのが特定の機関や部署である自治体もあれば、保健師など個人に委ねられている自治体もあった。これらを整理するために、特につなぎ支援に注目しながら地域の支援体制の充足度を点検するための評価ツールを作成した。

支援ニーズとサービスの実態に関する研究（成人期）では、2 年目に予定している全国調査の予備的検討として、当事者、家族、国内外有識者・支援者へのインタビューを行った。

サービス内容の評価に関する研究では、先行研究で作成した調査票が発達支援現場の実態に即したものかどうか、実施可能性を探索することを目的として、児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、計 3 施設の責任者および職員のヒアリングを実施した。

研究分担者（五十音順）

内山登紀夫 福島大学教授
神尾 陽子 国立精神・神経医療研究セ
ンター精神保健研究所部長
篠山 大明 信州大学准教授
清水 康夫 横浜市総合リハビリテーシ
ョンセンター参与
高橋 倖 豊田市福祉事業団理事長

A. 研究目的

発達障害児者への支援サービスは制度上保証されているが、ニーズの実態把握は不十分である。また、人口規模、地理的条件、財政などの地域特性によって、サービスの量・質ともに異なる可能性がある。さらに、未診断でも発達障害の特性や軽度の遅れがあり支援を要するケースが、潜在的にかなり存在すると考えられる。本研究は、発達

障害の支援ニーズおよびわが国の各地で実施されているサービスの実態の全国調査によって把握することを目的とする。

本研究は、平成25～27年度に行われた2つの厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）を発展的に結合、継承したものである。研究代表者の本田は、「発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価」の研究代表者を務めた。全国調査によって発達障害の支援ニーズと地域の支援システムの実態について調査・分析し、地域特性に応じた課題の抽出と提言を行った。また、同じコホートの疫学調査を医療機関および学校に対して同時にを行うことにより、診断例だけでなく未診断ながら支援ニーズのある子どもが少なからず存在する実態を抽出した。一方、研究分担者の内山は「青年期・成人期発達障がいの対応困難ケースへの危機介入と治療・支援に関する研究」の研究代表者を務め、青年期・成人期の発達障害に関する支援ニーズを疫学的手法で示した。これらの2つの課題で研究分担者および研究協力者を担った研究者の多くが本研究でも研究分担者および研究協力者として引き続き配置されているため、発達障害の実態調査に関して全国の様々な規模の自治体と協力関係がすでに確立している点が、本研究における有利な条件である。

B. 研究方法

1. 地域特性に応じた支援ニーズとサービスの実態に関する研究

(1) 自治体を対象としたサービスの実態に関するアンケート調査

児童期と青年・成人期に分けて調査を

実施した。児童期では、自治体を政令指定都市、中核市、小規模市、小規模町村の4群に分け、それぞれに研究協力を得ることのできた自治体の障害福祉担当部署へのアンケート調査を行った。青年・成人期では、知的に正常で20歳以降に初めて診断がついた人のニーズや診断が遅れた理由などを個別の面談により調査した。

(2) 発達障害の子どもにおける支援ニーズの調査

平成25年度～27年度の障害者対策総合研究事業「発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価」では、障害者発達障害の早期支援を先進的・意欲的に行っている自治体（横浜市、広島市、福岡市、豊田市、宮崎市、函館市、松本市、東京都板橋区、糸島市、多治見市、瑞浪市、山梨市、南相馬市）を対象として、平成25年度に小学1年生および6年生であった子どもたちにおける発達障害の頻度調査のデータを毎年追跡調査したデータが得られている。本研究では、このコホートの追跡調査を行い、幼児期から学童期にかけての発達障害の支援ニーズを継続的に求めた。

2. サービス内容の評価に関する研究

全国の発達障害児者への支援サービスを提供している事業所（近年増加している民間のサービス事業所等も含む）においてサービス内容の調査を行うための指標について検討した。

先行研究（神尾ら、2016）で作成した調査票が発達支援現場の実態に即したものかどうか、実施可能性を探索することを目的

として、児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、計3施設の責任者および職員のヒアリングを実施した。

(倫理面への配慮)

研究対象者への侵襲的介入はない。個人データを収集する調査では、データを連結可能な状態で匿名化した。アンケート調査の調査項目には特定可能な個人情報は含まれない。関連倫理指針（人を対象とする医学系研究に関する倫理指針）に基づいた手続きを遵守するとともに、研究代表者、研究分担者は各所属機関にて倫理委員会の承認を受けた。

C. 研究結果

1. 地域特性に応じた支援ニーズとサービスの実態に関する研究

(1) 自治体を対象としたサービスの実態に関するアンケート調査

児童期の調査では、発達障害の支援ニーズの爆発的な増加に伴い、多くの自治体で発達障害児の支援体制整備が急がれていることが示された。多領域の連携推進を行う公的部署または連携会議の設置については、自治体によってかなりの差がみられた。連携のなかでもつなぎ支援については、自治体によってやり方に大きな違いがみられた。連携を担うのが特定の機関や部署である自治体もあれば、保健師など個人に委ねられている自治体もあった。これらを整理するために、特につなぎ支援に注目しながら地域の支援体制の充足度を点検するための評価ツールを作成した。

青年・成人期の調査では、よこはま発達

クリニックで診療継続中の患者から知的に正常で20歳以降に初めて診断がついた人のニーズや診断が遅れた理由などを個別の面談により調査した。共通した訴えは、日常生活に置ける困難、経済的不安であった。診断については、発達期に専門家に相談したにも関わらず発達障害の存在が否定される事例が多かった。50歳以上の人では家族がなく老後の不安を訴える人が多かった。

(2) 発達障害の子どもにおける支援ニーズの調査

この調査は2年間かけて行う予定であるため、1年目は中間段階の集計を行った。

2. サービス内容の評価に関する研究

調査票をもとに、現場の視点から意見や希望などを聴取し、改訂すべきポイントが明らかになった。

D. 考察

本研究の目的は、疫学的手法を用いて発達障害の支援ニーズ、およびわが国の各地で実施されているサービスの実態を把握することである。1年目である本年度は、2年目に本格的な全国調査を行うための準備段階となる研究を行った。

自治体を対象としたサービスの実態に関する調査では、研究者（研究代表者、研究分担者、研究協力者）が密に関わっており現場の実情を把握している自治体に絞って障害福祉担当部署への詳細なアンケート調査を実施した。これを通じて、各自治体における発達障害の支援体制を把握し、とくに領域間の連携の実態と具体的なサービス事業所の整備の実態が明らかとなった。

これと並行して、地域の支援システムの充足度と課題を可視化して評価するための評価ツールを研究代表者が作成し、アンケート結果をもとに評価ツールで評価を試みた。法律体系は全国共通でも、実際の運用の仕方には地域の事情に応じた多様性がある。とくに法制度では具体的な内容が明記されることの少ない領域間連携、なかでもつなぎ支援については、自治体によって大きな差がみられた。この評価ツールは、自治体における発達障害支援施策の充足度を評価するのである程度有効であると思われるため、2年目はこれを用いた全国調査を行う予定である。

青年期・成人期の支援ニーズについては、予備的検討として個別の事例に対するインタビューを行った。ここから抽出された課題について、次年度はアンケートを用いた全国調査を行う予定である。

発達障害の子どもにおける支援ニーズの調査は、従来の疫学調査の手法に加えて、平成25年度～27年度に行われた厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）「発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価」の調査対象コホートを引き継いでいるため、最終的に5年間の継時的变化をもみることができる。これが達成されれば、国際的にみても類のない貴重な学術的データが得られることになる。

サービス内容の評価については、今年度行った視察および聞き取り調査をもとに、現場の実態やニーズに即した調査票の改訂を行い、2年目は全国調査を行う予定である。

E. 結論

従来の障害福祉行政では、医療による診断を前提とした障害種別や支援サービスの提供が行われてきたが、発達障害に対しては必ずしも診断がなくても支援ニーズのある人たちの潜在的ニーズを念頭に置いた施策が求められる。本研究で、発達障害の支援に関する幅広いニーズを十分に把握できる。また、かつての想定より支援ニーズが高いことが近年指摘されている発達障害のある女性について、その特有の行政的課題についてはじめて資料が得られることが期待される。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

1. 論文発表 別紙参照
2. 学会発表
 - 1) 本田秀夫：自閉スペクトラム症への対応－ライフサイクルを見据えて－。沖縄精神神経学会，那覇，2.6, 2016。
 - 2) 本田秀夫：わが国における自閉スペクトラム症の早期診断の実態－多地域疫学調査より－。第112回日本精神神経学会学術総会，幕張，6.2, 2016。
 - 3) 本田秀夫：発達障害の概念および子どもの発達障害と睡眠障害。日本睡眠学会第41回定期学術集会，東京，7.8, 2016。
 - 4) 本田秀夫：大人になった発達障害。第21回認知神経科学会学術集会，東京，8.7, 2016。
 - 5) 本田秀夫：自閉スペクトラム症の早期療育と長期予後。第57回日本児童青年精神医学会総会，岡山，10.28, 2016。

- 6) 本田秀夫：精神科医からみた「本当に必要な支援」。日本 LD 学会第 25 回大会プレコングレス，東京，11.18, 2016。
- 7) 本田秀夫：ライフステージに応じた発達障害支援。メンタルヘルス関連三学会合同大会（第 38 回全国大学メンタルヘルス学会総会，第 32 回日本精神衛生学会大会，第 20 回日本学校メンタルヘルス学会大会），東京，12.11, 2016。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

I. 参考文献

- 1) 神尾陽子，原口英之，石飛信，山口穂菜美：我が国の発達支援の実態：児童発達支援および放課後等デイサービスの実態に関する予備的調査。厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野））：発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価－平成 27 年度総括・分担研究報告書 (H25-身体・知的-一般-008) , p.395-421, 2016。

資料：自治体を対象としたアンケート調査の調査票

市区町村における発達障害児に関する支援状況調査票

この調査は、市区町村における発達障害児と家族への支援モデルを検討することを目的とした実態調査です。下記項目について、ご記入のほどよろしくお願ひいたします。

市区町村名（ ）

記入者氏名（ ）

記入者所属（ ）

対象とした地域(市町村区)の地域特性

1. 地理的特徴・人口・人口動態

各自治体で出されている平成28年4月1日時点のデータ(なければ、なるべく最新のデータ)をもとに記入してください。

項目	平成()年()月()日時点
総面積	Km ²
総人口	人
人口密度(可住地面積 1km ² 当たり)	人
人口性比(女性100人に対する男性の数)	人
世帯数	人
1世帯当たりの人数	人
外国人数	人
社会増	人
社会減	人
出生	人
死亡	人
出生率(人口1000対)	
死亡率(人口1000対)	
乳児死亡率(人口1000対)	
婚姻率(人口1000対)	
離婚率(人口1000対)	
年少人口割合(0~14歳)	%
生産年齢人口割合(15~64歳)	%
老人人口割合(65歳以上)	%
高齢者単身世帯の割合	%
市町村内総生産(名目)	千円
完全失業者数	人
完全失業率	%
生活保護被保護人員(人口千人当たり)	人
財政力指数	
市町村民税(人口1人当たり)	円
児童虐待件数(年間)	件

2. 就業人口

平成 22 年の国勢調査のデータを記入してください。

項目	人口(人)			構成比(%)		
	計	男	女	計	男	女
人口総数				—	—	—
就業人口総数				100	100	100
就業率				—	—	—
産業分類別就業者人口	農業、林業					
	うち農業					
	漁業					
	第1次産業					
	鉱業、採石業、砂利採取業					
	建設業					
	製造業					
	第2次産業					
	電気・ガス・熱供給・水道業					
	情報通信業					
	運輸業、郵便業					
	卸売業、小売業					
	金融業、保険業					
	不動産業、物品販貸業					
	学術研究、専門・技術サービス業					
	宿泊業、飲食サービス業					
	生活関連サービス業、娯楽業					
	教育、学習支援業					
	医療、福祉					
	複合サービス事業					
	サービス業	(他に分類されないもの)				
	公務					
	第3次産業					
	分類不能の産業					

3. 職業大分類別就業者数

平成 22 年の国勢調査のデータを記入してください。

項目	人口(人)			構成比(%)		
	計	男	女	計	男	女
就業者総数				100	100	100
管理的職業従事者						
専門的・技術的職業従事者						
事務従事者						
販売従事者						
サービス職業従事者						
保安職業従事者						
農林漁業従事者						
生産工程従事者						
輸送・機会運転従事者						
建設・採掘従事者						
運輸・清掃・包装等従事者						
分類不能の職業						

4. 地理的特性の概要

地形、交通の便、気候、産業などの特徴、その他、発達障害の支援体制づくりに関連する可能性のある地理的特性について、自由に記載してください。自治体から出されている資料などがあれば、添付してください。外国人集住地域を含む自治体は、そのことにも触れてください。

発達障害の支援システム

I 知的障害（IとIIは、内容が同じならここにまとめて記入してもかまいません）

1. 自治体における療育手帳の種類と基準

2. 支援システムの概要（自治体から出されている資料があれば、添付してください）

（1）モデル図

（2）発見の場

（3）発見から継続的な支援までの流れ（発見の場が複数ある場合、分けて書いてください）
とくにつなぎ支援や連携については、どのような形で誰が担っているのかをなるべく詳細に記載してください。

(4) 医療の関わり方

(5) 幼児期の継続的な支援

- a. 障害幼児対象の専門機関
- b. 幼稚園・保育所・認定こども園
- c. 幼稚園・保育所・認定こども園への外部専門職による支援
- d. 学校への引き継ぎ

(6) 学齢期の支援

a. 教育システム内の支援体制：

b. 医療・福祉などとの連携：

(7) 専門家の養成

(8) 普及啓発

II 知的障害のない発達障害

1. 支援システムの概要（自治体から出されている資料があれば、添付してください）

（1）モデル図

（2）発見の場

（3）発見から継続的な支援までの流れ（発見の場が複数ある場合、分けて書いてください）
とくにつなぎ支援や連携については、どのような形で誰が担っているのかをなるべく詳細に記載してください。

(4) 医療の関わり方

(5) 幼児期の継続的な支援

- a. 障害幼児対象の専門機関
- b. 幼稚園・保育所・認定こども園
- c. 幼稚園・保育所・認定こども園への外部専門職による支援
- d. 学校への引き継ぎ

(6) 学齢期の支援

a. 教育システム内の支援体制：

b. 医療・福祉などとの連携：

(7) 専門家の養成

(8) 普及啓発

III 障害児支援の体制

1. 母子保健

担当部署：()

担当スタッフ：

保健師：常勤（ ）人、非常勤（ ）人

保健師1人あたりの0～4歳人口（ ）人

その他：職種名（ ） 常勤（ ）人、非常勤（ ）人

職種名（ ） 常勤（ ）人、非常勤（ ）人

2. 乳幼児健診・就学児健診（平成28年度）

健診（時期）	実施主体	実施場所	年間のべ	1回平均	受診率	フォロー率（内訳も）
乳児（歳力月）	市町村・その他（ ）	力所	回	人	%	%
1歳半（歳力月）	市町村・その他（ ）	力所	回	人	%	%
2歳（歳力月）	市町村・その他（ ）	力所	回	人	%	%
3歳（歳力月）	市町村・その他（ ）	力所	回	人	%	%
5歳（歳力月）	市町村・その他（ ）	力所	回	人	%	%
就学時	教育委員会・その他（ ）	力所	回	人	%	%
その他（ ）	（詳細）	力所	回	人	%	%

*内訳のうち、発達障害が疑われてフォローとなっている子どもはどこに入るかを明記してください。

3. 幼稚園・保育所・認定こども園

園の数、障害児受け入れの実態、専門機関との連携など

4. 専門機関

(1) 知的障害児を対象とした福祉施設等(施設の経営主体、規模およびプログラムの概要など)

- ・障害児通所支援(児童発達支援センター、児童発達支援事業所、医療型児童発達支援センター、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援)、障害児入所支援、その他に分けて記載してください。

(2) 知的障害のない発達障害を対象とした福祉施設等(施設の規模及びプログラムの概要など)

- ・障害児通所支援(児童発達支援センター、児童発達支援事業所、医療型児童発達支援センター、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援)、障害児入所支援、その他に分けて記載してください。

(3) 発達障害専門の医療機関(常勤医師および非常勤医師の人数と診療人数)

(4) 特別支援教育

小学校：市区町村立____校， その他の公立____校， 私立____校

特別支援学校：

知的障害特別支援学級：市区町村立小学校____校中____校に設置

情緒障害・自閉症特別支援学級：市区町村立小学校____校中____校に設置

通級指導教室：種別と学校数

通級指導を受けている小学生数

IV 発達障害者支援法の改正等に関連する質問

1. 発達障害支援の相談窓口となる「発達支援センター」や「発達支援室」などの公的センター等はありますか？ある場合、名称、経営主体、職員数と職種、支援対象、機能について書いてください。複数ある場合はすべて書いてください。

例) 名称：「障害者福祉課発達支援室」（市直営）

職員：ソーシャルワーカー2名（常勤）、保健師1名（常勤）、臨床心理士2名（非常勤）、
児童精神科医師1名（非常勤）

対象：発達障害のある幼児、学童、成人

機能：相談、心理評価、医療相談、巡回相談

2. 自治体（市区町村）には、発達障害に関する連携を目的とした会議が設置していますか？

していない している（会議の名称：_____）

設置している場合、委員はどのような職種、立場の人たちで構成されていますか？含まれるものに○をつけてください。

学識経験者 精神科医・児童精神科医 小児科医 児童福祉関係者 障害福祉関係者
普通教育関係者 特別支援教育関係者 就労支援関係者 警察関係者 司法関係者
その他（ ）

複数ある場合、以下に追加してください。

3. 発達障害児者支援に関して、都道府県との連携は行っていますか？

行っている場合、どのような形で行っていますか？

4. 保護者・家族への情報提供、助言等の支援を行うためのプログラムは行っていますか？
行っている場合、どのような形で行っていますか？

5. 発達障害に関する支援体制の中で、以下について何か配慮をしていますか？

(1) 女性

(2) 日本語に通じない子ども（外国人など日本語の能力が十分でない子ども）

(3) 療育手帳や診断を受けていない境界知能の子ども

6. 発達障害児の差別解消、いじめ・虐待防止等のために、何か対策を講じていますか？

V 発達障害の支援体制全般に関する自治体の課題

貴自治体の発達障害の支援体制全般に関して、到達している点と今後の課題についてご自由に書いてください。

資料：発達障害の支援ニーズ調査(医療機関)の調査票

発達障害の累積発生率と有病率

小学1年生用：平成28年度の小学1年生(平成21年4月2日～平成22年4月1日生まれ)

上記の期間に出生した子どもの数（出生コホート） []人 (男[]人、女[]人)
 うち外国人の数 []人 (男[]人、女[]人)
 平成28年4月1日現在、地域に居住する小学1年生の子どもの数（居住コホート） []人 (男[]人、女[]人)
 うち外国人の数 []人 (男[]人、女[]人)

(1) 出生コホートからの平成28年4月1日までの発生数（受診した子どものみ）
 [人数(男:女)]の形で男女合計と男女別の人數を記入してください(例：[15(8:7)]。外国人の数は下の段に内数として記入してください)。

診断された年齢	IQ69以下			IQ70以上			計
	重複なし	F90あり	他の重複あり	重複なし	F90あり	他の重複あり	
1歳代以下 (うち外国人)	例 15(8:7) (1(1:0))	()	()	()	()	()	()
2歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5～6歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	② 多動性障害 (F90; ①を除外)						計
	IQ69 以下			IQ70 以上			
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90 あり	他の重複あり	
1歳代以下 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
2歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5～6歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80; ①②を除外)			④ 精神遅滞 (F70~F79; ①②③を除外)		
	IQ69 以下		IQ70 以上		計	重複あり
	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり		
1歳代以下 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
2歳代 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
3歳代 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
4歳代 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
5~6歳代 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
不明 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
合計 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)

診断された年齢	⑤ その他の発達障害		⑥ 境界知能	
	内訳(診断ヒト人数(男・女))	人数	内訳(診断ヒト人数(男・女))	人数
1歳以下 (うち外国人)	()	()	()	()
2歳代 (うち外国人)	()	()	()	()
3歳代 (うち外国人)	()	()	()	()
4歳代 (うち外国人)	()	()	()	()
5~6歳代 (うち外国人)	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()

(2) 出生コホートからの平成28年4月1日までの発生数	
① PDD と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
② ①以外で多動性障害と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
④ ①②③以外で精神遲滞と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
⑤ その他の発達障害と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
⑥ 境界知能と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
うち外国人の数	[]人 (男[]人、女[]人)
① PDD と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
② ①以外で多動性障害と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
④ ①②③以外で精神遲滞と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
⑤ その他の発達障害と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)
⑥ 境界知能と思われる子ども	[]人 (男[]人、女[]人)

(3) 平成28年4月1日時点での居住コホートに含まれる有病者数（受診した子どものみ）
[人数(男女)]の形で男女合計と男女別の人數を記入してください（例：「15(8:7)」）。外国人の数は下の段に内数として記入してください。

① PDD (F84)

診断された年齢	IQ69 以下			IQ70 以上			計
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90 あり	他の重複あり	
1歳代以下 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
2歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5～6歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	② 多動性障害 (F90; ①を除外)						計
	IQ69 以下			IQ70 以上			
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90 あり	他の重複あり	
1歳代以下 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
2歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5～6歳代 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80; ①②を除外)				④ 精神遅滞 (F70~F79; ①②③を除外)			
	IQ69 以下		IQ70 以上		計		重複あり	重複なし
	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり				
1歳代以下 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
2歳代 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
3歳代 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
4歳代 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
5~6歳代 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
不明 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)
合計 (うち外国人)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)

診断された年齢	⑤ その他の発達障害		⑥ 境界知能 内訳（診断と人数（男・女））	人数
	内訳	（診断と人数（男・女））		
1歳代以下 (うち外国人)	())	()
2歳代 (うち外国人)	())	()
3歳代 (うち外国人)	())	()
4歳代 (うち外国人)	())	()
5~6歳代 (うち外国人)	())	()
不明 (うち外国人)	())	()
合計 (うち外国人)	())	()

(4) 平成28年4月1日時点での居住コホートに含まれる有病者数

- ① PDDと思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ② ①以外で多動性障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ④ ①②③以外で精神遲滞と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ⑤ その他の発達障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ⑥ 境界知能と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
- うち外国人の数
- ① PDDと思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ② ①以外で多動性障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ④ ①②③以外で精神遅滞と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ⑤ その他の発達障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
 - ⑥ 境界知能と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)

小学2年生以上用: 平成28年度の小学一年生(平成一年4月2日～平成二年4月1日生まれ)

上記の期間に出生した子どもの数（出生コホート） []人（男[]人、女[]人）
うち外国人の数 []人（男[]人、女[]人）
平成28年4月1日現在、地域に居住する小学校1年生の子どもの数（居住コホート） []人（男[]人、女[]人）
うち外国人の数 []人（男[]人、女[]人）

(1) 出生コホートからの平成28年4月1日までの発生数(受診した子どものみ)
「人数(男:女)」の形で男女合計と男女別の人數を記入してください(例:「[15 (8:7)]」。外国人の数は下の段に内数として記入してください)。

診断された年齢	① PDD (F84)					計
	IQ69以下		IQ70以上			
	重複なし	F90あり	他の重複あり	重複なし	F90あり	他の重複あり
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
1年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
2年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
3年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
4年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
5年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
6年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
中学1年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
中学2年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	② 多動性障害 (F90; ①を除外)						計
	IQ69 以下			IQ70 以上			
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90 あり	他の重複あり	
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
6 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学 1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学 2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80; ①②を除外)				④ 学力の特異的発達障害 (F81; ①②③を除外)			
	IQ69 以下		IQ70 以上		計		重複なし	
	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
3 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
4 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
5 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
6 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
中学 1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
中学 2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	⑤精神遲滞 (F70～F79; ①②③④を除外)			⑥ その他の発達障害			⑦ 境界知能 人数
	重複なし	重複あり	計	内訳 (診断と人数 (男・女))	内訳 (診断と人数 (男・女))	内訳 (診断と人数 (男・女))	
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
1年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
2年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
6年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学1年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学2年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

(2) 出生コホートからの平成28年4月1日までの発生数

- うち外国人の数

① PDD と思われる子ども
② ①以外で多動性障害と思われる子ども
③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども
④ ①②③以外で学力の特異的発達障害と思われる子ども
⑤ ①②③④以外で精神遅滞と思われる子ども
⑥ その他の発達障害と思われる子ども
⑦ 境界知能と思われる子ども

① PDD と思われる子ども
② ①以外で多動性障害と思われる子ども
③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども
④ ①②③以外で学力の特異的発達障害と思われる子ども
⑤ ①②③④以外で精神遅滞と思われる子ども
⑥ その他の発達障害と思われる子ども
⑦ 境界知能と思われる子ども

(3) 平成28年4月1日時点での居住コホートに含まれる有病者数（受診した子どものみ）
[人数(男女)]の形で男女合計と男女別の人數を記入してください(例：[15(8:7)]。外国人の數は下の段に内数として記入してください)。

① PDD (F84)

診断された年齢	IQ69以下			IQ70以上			計
	重複なし	F90あり	他の重複あり	重複なし	F90あり	他の重複あり	
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
1年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
2年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
6年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学1年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学2年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	② 多動性障害 (F90; ①を除外)						計
	IQ69 以下			IQ70 以上			
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90 あり	他の重複あり	
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
6 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学 1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学 2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80 : ①②を除外)				④ 学力の特異的発達障害 (F81 : ①②③を除外)			
	IQ69 以下		IQ70 以上		計		重複なし	
	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
3 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
4 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
5 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
6 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
中学 1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
中学 2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()	()

診断された年齢	⑤精神遲滞 (F70～F79; ①②③④を除外)			⑥ その他の発達障害			⑦ 境界知能 人数
	重複なし	重複あり	計	内訳 (診断と人数 (男・女))			
就学前 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
3 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
4 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
5 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
6 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学 1 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
中学 2 年生 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
不明 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()
合計 (うち外国人)	()	()	()	()	()	()	()

(4) 平成28年4月1日時点での居住コホートに含まれる有病者数

- ① PDD と思われる子ども
② ①以外で多動性障害と思われる子ども
③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども
④ ①②③以外で学力の特異的発達障害と思われる子ども
⑤ ①②③④以外で精神遲滞と思われる子ども
⑥ その他の発達障害と思われる子ども
⑦ 境界知能と思われる子ども

うち外国人の数

① PDD と思われる子ども
② ①以外で多動性障害と思われる子ども
③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども
④ ①②③以外で学力の特異的発達障害と思われる子ども
⑤ ①②③④以外で精神遅滞と思われる子ども
⑥ その他の発達障害と思われる子ども
⑦ 境界知能と思われる子ども

境界知能の症例について

上記のデータの中かに、境界知能であって知的障害や発達障害の診断がついていない子どもがいる場合、その子どもは診断がないのに医療機関を受診していることがあります。これらの子どもたちにどのように支援ニーズがあるのかを、以下に記してください。

症例番号 (適宜つけてください)	性別	初診年齢	調査時年齢	受診経路	初診時の主訴	調査時点の支援ニーズ

反抗挑戦性障害・素行障害の症例について

知的障害や発達障害をベースに著しい反抗・暴力や素行の問題を呈し、反抗挑戦性障害や素行障害の診断がつく子どもがいます。これらの子どもたちにどのような支援ニーズがあるのかを、以下に記入してください。

症例番号 (適宜つけてください)	性別	初診年齢	調査時年齢	受診経路	併存する知的・発達障害	調査時点の支援ニーズ

[小学校2年生以上用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

以下の質問では、平成28年度の__学校__年生（平成__年4月2日～平成__年4月1日生まれ）で、平成28年4月2日時点で[]市に居住し貴校に在籍していた子どものうち、通常の学級、特別支援学級を問わず貴校が把握しているすべての子どもについて記入してください。平成28年4月2日以前に転出した子どもやそれ以後に転入した子どもは除外してください。人数の中に「日本語の能力に応じた特別な指導」の対象となる子ども児が含まれる場合は、[15 (1)]のように数字の後ろに（ ）をつけて内数として記入してください。

学校名（ ）

ご記入いただいた先生のお名前とお立場（特別支援教育コーディネーター等）（ ）

1. 平成 28 年 4 月 2 日時点で [] 市に居住し貴校に在籍していた__年生の総人数（通常の学級と特別支援学級の計）を記入してください。

[] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

2. 1 のうち、発達に何らかの遅れや偏りがある子どもとして把握している__年生の子どもの総数と、特別支援体制の内容について、それぞれの人数を記入してください。ひとりの子どもが複数の制度を活用している場合には、リストの上位の項目を優先して 1 つのみ選択してください。

総数 [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

内訳

A. 特別支援学級に在籍

(1) 知的障害特別支援学級 [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

(2) 自閉症・情緒障害特別支援学級 [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

(3) その他の特別支援学級 [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

B. 通常の学級に在籍

(1) 情緒障害通級指導教室に通級 [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

(2) 難聴・言語障害通級指導教室に通級 [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

(3) その他の通級指導教室に通級 [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

(4) 適応指導教室((1)～(3)通級児を除く) [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

(5) その他の支援 () [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

() [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

() [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

() [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

(6) 学級担任による配慮のみ [] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

3. 発達に何らかの遅れや偏りがある子どもとして把握している子どもの人数を記入してください。（）内にある診断名についている子どもを含めますが、診断されていない子どもでもその特徴があれば含めてください。視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱の子どもでも、当てはまる特徴があれば含めてください。

主たる問題が、

- (1)-a. 対人関係やこだわりなどの問題（「自閉症」「アスペルガー症候群」「広汎性発達障害」「自閉症スペクトラム」など）

[] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

a のうち、しばしばイライラし、腹を立て、瘤瘻を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

a のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

b. a のうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

b のうち、しばしばイライラし、腹を立て、瘤瘻を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[] ()]人 (男[] ()]人、女[] ()]人)

b のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

c. a のうち、不登校（30 日以上の長期欠席）の子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

(2)-a. (1)に含まれていない子どもで、落ち着きがない、そそっかしいなどの問題（「ADHD」「多動性障害」など）

[]人 (男[]人、女[]人)

a のうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

a のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b. a のうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b のうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

c. a のうち、不登校（30 日以上の長期欠席）の子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

(3)-a. (1)にも(2)にも含まれていない子どもで、言葉を理解することや話すことの問題（「構音障害」「発達性言語障害」など）

※吃音（どもり）、場面緘默が主たる問題の子どもは、ここではなく(6)に含めてください

[]人 (男[]人、女[]人)

a のうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

a のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b. a のうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b のうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

c. a のうち、不登校（30 日以上の長期欠席）の子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

(4)-a. (1)～(3)のいずれにも含まれていない子どもで、発達全体の遅れでは説明のつかない学力の問題（「学習障害」「LD」など）

[]人 (男[]人、女[]人)

a のうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど

著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

aのうち、過去1年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b. aのうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

bのうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

bのうち、過去1年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

このうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

c. aのうち、不登校（30日以上の長期欠席）の子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

(5)-a. (1)～(4)のいずれにも含まれていない子どもで、発達全体の遅れ（「精神遅滞」「知的障害」など）

[]人 (男[]人、女[]人)

aのうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

aのうち、過去1年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b. aのうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

bのうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

bのうち、過去1年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

c. aのうち、不登校（30日以上の長期欠席）の子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

(6)-a. (1)～(5)のいずれにも含まれていない子どもで、なんらかの精神科などの専門的なケアを要すると思われる問題（吃音、場面緘默、チックなどが主たる問題の場合、ここに含めてください）

[]人 (男[]人、女[]人)

aのうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

aのうち、過去1年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b. aのうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[]人 (男[]人、女[]人)

b のうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

b のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

c. a のうち、不登校（30 日以上の長期欠席）の子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

(7)-a. (1)～(6)のいずれにも含まれていない子どもで、知的に境界知能と思われる問題

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

a のうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

a のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

b. a のうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

b のうち、しばしばイライラし、腹を立て、癪癩を起こしたり、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性（「反抗挑戦性障害」など）を有する子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

b のうち、過去 1 年の間に家出、街の徘徊、暴行、器物破損、放火、窃盗などの虞犯または触法行為を行った（「素行障害」など）子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

c. a のうち、不登校（30 日以上の長期欠席）の子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

4. 3 で、医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数
受診に抵抗がある		必要性を感じない	
家族の理解が得られない		経済的理由	
民間療育機関など他に相談の場がある		宗教的理由	
なんとなく		(以下、適宜加えてください)	

5. 知的に境界知能の子どもの教育について、何か問題点があれば以下に記載してください。

6. 日本語の能力に応じた特別な指導の対象児でかつ発達に何らかの遅れや偏りがある子どもの教育について、何か問題点があれば以下に記載してください。

ご協力ありがとうございました。

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

学校名 ()

ご記入いただいた先生のお名前とお立場（特別支援教育コーディネーター等）（ ）

以下の質問では、平成28年度の小学校1年生（平成21年4月2日～平成22年4月1日生まれ）で、平成28年4月2日時点で[]市に居住し貴校に在籍していた子どものうち、通常の学級、特別支援学級にかかるわらず貴校が把握しているすべての子どもについて記入してください。それ以前に転出した子どもやそれ以後に転入した子どもは除外してください。人数の中に「日本語の能力に応じた特別な指導」の対象となる子ども児が含まれる場合は、[15(1)]のように（ ）内に内数として記入してください。

1. 貴校の小学校1年生の総人数（通常の学級および特別支援学級の計）を記入してください。

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

2. 発達に何らかの遅れや偏りがある子どもとして把握している子どもの人数を記入してください。（ ）内にある診断名についている子どもを含めますが、診断されていない子どもでもその特徴があれば含めてください。視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱の子どもでも、当てはまる特徴があれば含めてください。

主たる問題が、

(1) 対人関係やこだわりなどの問題（「自閉症」「アスペルガー症候群」「広汎性発達障害」「自閉症スペクトラム」など）

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

このうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

(2)(1)に含まれていない子どもで、落ち着きがない、そそっかしいなどの問題（「ADHD」「多動性障害」など）

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

このうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

(3)(1)にも(2)にも含まれていない子どもで、言葉を理解することや話すことの問題（「構音障害」「発達性言語障害」など）

※吃音（どもり）や場面緘默が主たる問題の子どもは、ここではなく(5)に含めてください

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

このうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

(4)(1)～(3)のいずれにも含まれていない子どもで、発達全体の遅れ（「精神遲滞」「知的障害」など）

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

このうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

(5)(1)～(4)のいずれにも含まれていない子どもで、なんらかの精神科などの専門的ケアを要すると思われる問題（吃音、場面緘默、チックなどが主たる問題の場合、ここに含めてください）

[()]人 (男 [()]人、女 [()]人)

[小学校1年生用]

このうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

(6)(1)～(5)のいずれにも含まれていない子どもで、知的に境界知能と思われる問題

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

このうち、医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは？

[()]人 (男[()]人、女[()]人)

3. 2で、医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数
受診に抵抗がある		必要性を感じない	
家族の理解が得られない		経済的理由	
民間療育機関など他に相談の場がある		宗教的理由	
なんとなく		(以下、適宜加えてください)	

ご協力ありがとうございました。